

読者のみなさんは、料理を作るのは得意だろうか？

自慢じゃないが、僕は大学の苦手だ。なにしろ、学生の頃、研究室にあった『お料理づくり1年生』という本を借りて自炊に励んだとき、ある料理がトラウマ級に不味かった。それ以来ずっと、料理を楽しみと思ったことがない。

そんな僕にも、最近、料理を楽しみと思える出来事があった。地域の市民団体「西豊田学区地域支え合い体制づくり実行委員会」が民間の助成金を得て、地域の小学校と中学校に“かまどベンチ”を作ることになり、僕もそのプロジェクトに参加したのだ。

かまどベンチとは、ふだんはベンチとして使用され、災害時にはその座面を外してかまどとして調理に活用できるというものだ。最近はおちこちの公園にも設置されているようなので、見かけたことがあるという方は多いかもしれない。そのかまどベンチを、僕らは市販品を設置するのではなく、レンガで手作りすることに挑戦した。

制作に取り掛かる前の昨年6月には、先進事例として知られる滋賀県東近江市へ調査に行った。視察先のある小学校では、コロナ禍の中、修

学旅行に行けなくなった代わりに、学校の体育館に泊まって、防災キャンプをやったそうだ。また、その際、学校内に設置されたかまどベンチを炊き出しに使ったと聞いた。

修学旅行の中止というピンチを、学校での防災教育のチャンスに変えるなんて、とても素敵な発想だと思う。

いつか

「かまどベンチ」で朝食を

松尾 和光

(まつお かずみつ)

静岡市在住)

さて、プロジェクトの中心メンバーによる打合せと資材準備の後、いよいよ僕たちはかまどベンチづくりに取りかかった。①土台作り、②レンガ積み、③ペイント・座面の設置という3回に分けて、7月から8月に制作イベントを開催。学校の児童・生徒や保護者にはもちろん、広く一般市民にも呼びかけて、作業に参加してもらった。

10月と11月には小学校で完成お披露目イベントを開催した。かまどベンチでホットサンドを焼いたり、お米やパスタを茹でたり、ウインナーやマッシュマロを温めたり、沸かしたお湯でココアやコーヒーを淹れたり。大人も子どももみんな喜んでくれて、なかには「毎週やってください!」と言ってくれる子もいて、僕たちも嬉しかった。

実は、僕たちがかまどベンチを設置としたこの小学校と中学校は、僕たちが毎年のように宿泊型の避難所運営訓練を実践してきた場所でもある。昨年の訓練では、プログラムの都合上、かまどベンチは使用しなかったのだが、今年はずいぶんかまどベンチで炊き出しをやりたいと思う。朝が苦手な僕も、きっと進んで朝食づくりに参加するだろう。まあ、料理の腕はというと、1年生からやり直しのレベルなのだけど…。



かまどベンチ完成お披露目のイベントにて(2024年11月30日撮影。後列左から2人が筆者)